

年金記録問題検証委員会（第1回） 議事要旨

1. 日 時 平成19年6月14日（木）18時00分から20時30分

2. 場 所 中央合同庁舎第2号館 8階第1特別会議室

3. 出席者

（委員会） 松尾座長、金田委員、川本委員、野村委員、東田委員、屋山委員

（総務省） 菅総務大臣、田村総務副大臣、河合総務大臣政務官、熊谷行政評価局長、伊藤審議官 ほか

（厚生労働省、社会保険庁） 太田大臣官房長、村瀬社会保険庁長官 ほか

4. 主な議題

(1) 総務大臣挨拶

(2) 座長挨拶及び委員紹介

(3) 年金記録問題検証委員会運営方針について

(4) 総務省行政評価局説明

（マスコミ等で取り上げられている年金記録問題に関する主なポイント）

(5) 年金記録問題の概要及び質疑（厚生労働省）

（年金記録問題の経緯全般、社会保険庁の内部管理体制等について）

(6) 今後の年金記録問題検証委員会の進め方

(7) その他

5. 会議経過

(1) 菅大臣から、以下の趣旨のあいさつが行われた。

年金制度に対する国民の信頼と期待を取り戻すことは政治と行政に突きつけられた最優先の課題であり、安倍内閣が一丸となってこの問題に早急に対応し、一刻も早く国民の不安を解消し、信頼を取り戻すために全力で取り組んでいる。

検証委員会は、この一環として、年金記録問題の発生の経緯、原因、責任等を徹底調査・検証し、二度とこのようなことが起こらないように、隅から隅まで徹底的に検証し、明らかになった事実は包み隠さず公表していくことで、徹底的に膿を出し切るようお願いする。

(2) 検証委員会の運営方針について、以下のように決定した。

- ・松尾委員が座長として、委員会の進行を務める。
- ・委員会は、非公開とするが、委員会開催後、原則、座長が記者に対してブリーフィングを行う。
- ・委員会での配付資料は、原則非公表とするが、座長の判断により公表するものは速やかに総務省のホームページに掲載する。
- ・議事録は公表しない。議事要旨は公表する。

(3) 総務省行政評価局から、マスコミ等で取り上げられている年金記録問題に関する主なポイントについて説明があった。

(4) 厚生労働省及び社会保険庁から、年金記録問題の経緯等の概要説明があるとともに、検証委員会の運営への全面的な協力が表明された。

引き続き行われた質疑の主なポイントは、以下のとおり。

- ・委員から、5,000 万件、1,430 万件とは何かということについて分かりやすい説明がないのか、年金問題にこういう途方もない数字が登場したことで国民はショックを受けている状態ではないのか、この数字について国民の正しい理解を得る努力というものが決定的に不足しているのではないのか、記録の照合について具体的な方策があっても全体としてこれは何だという説明が欠けている、国民の受け止め方は大変厳しいと理解して一段の努力をすべきである等の指摘があり、厚生労働省及び社会保険庁からは、至急検討して、国民の理解を得られるように努めていきたいとの回答があった。
- ・委員から、厚生労働省年金局と社会保険庁との関係はどうなっているのか等の質問があり、厚生労働省及び社会保険庁からは、人事面、組織面についての説明とともに、三層構造といわれる体質問題、組織問題が問題を発生させた原因の一つであるという率直な説明があった。
- ・委員から、5,000 万件の後、間をおいて1,430 万件が出てきたことにも関連し、電子データにしていない原簿は社会保険庁として全部捕捉しているのか等の質問があり、社会保険庁からは、電子データにしなかった原簿は厚生年金の1,430 万件と船員保険の36 万件であるとの説明があった。
- ・委員から、問題が起こったのは業務の設計が悪いのか、業務の執行が悪いのか等の質問があり、社会保険庁からは、職員の意識は変わりつつあるが、仕事のやり方について急速に変えていくというのは大変難しい、仕事のやり方については社会保険事務局・社会保険事務所という現場にも本庁自体にも問題があったとの認識が示された。

(5) 今後の検証委員会の進め方に関し、以下について委員の意見の一致をみた。

- ・5,000 万件、1,430 万件などについて検証委員会はこういう問題として整理し、原因を究明しているということ、委員会としての問題意識はこうだということが、国民に分かるよう、中間段階の発表を行う。

(6) 次回は、6月26日(火)夕方に開催することとなった。

(文責 事務局)